

長野・愛知ブロック



愛知県小牧市副市長

伊木 利彦

Iki Toshihiko

愛知県小牧市の概要



○面積	62.81km ²
○人口(2019.12.1)	153,096人
○外国人数	9,851人(6.4%)
○姉妹都市	アメリカ ミシガン州ワイアンドット市
○友好都市	アメリカ ワシントン州グラント郡 大韓民国 京畿道安養市 北海道 二海郡八雲町

国指定史跡 小牧山

織田信長が初めて自らの手で築城した小牧山城。
豊臣秀吉と徳川家康が争った小牧・長久手の戦いの地としても知られる。



小牧市内の日本語教室

日本語教室(小牧市国際交流協会)



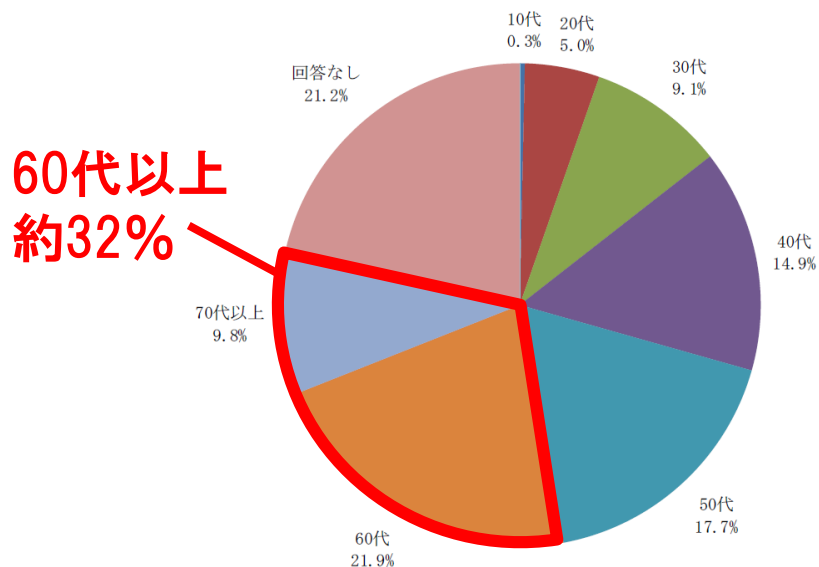
日本語体験隊「NAKAMA」
(小牧市国際交流協会)



日本語教室(NPO法人にわたりの会)

課題 日本語教師の養成

年代別日本語教師等の数（平成30年度国内の日本語教育の概要(文化庁国語課)より抜粋）



教師等の養成 (NPO法人にわたりの会)

主催/特定非営利活動法人にわたりの会 協力/ひよこの会、一色コスモスサポート学習の会 後援/小牧市、小牧市教育委員会

にわとり式 漢字インストラクター養成講座

お申込み受付中!!
詳細は裏面へ

初級1 場所：福岡市立センター 学習室 講師：平塚礼子先生(一色コスモスサポート学習の会) 「漢字が覚えられない子をどう指導したか」 小学校1,2年配当漢字を知り、漢字カードを使って、2人ペアで模擬授業を行う。 2/23 (金) 14:00-17:00	中級1 場所：小牧市教育委員会 学習センター(3階)303号室 講師：三浦幸子先生(南山学院大学)、神村佳寿美先生(日本女子大学) 語彙と教科学習の関わり、ディフェンションの可能性 小学校3,4年配当漢字の特徴を知り、漢字カードを使って2人ペアで模擬授業を行う。 3/9 (土) 10:00-12:00
初級2 場所：多岐の館4F 研修室1と2 講師：倉科子先生(NPO法人プラス・エデュケーター代表) 「NPOと学校の連携 NPO法人プラス・エデュケーターの場合」 小学校1,2年配当漢字の書き方をどう指導するか、漢字ドリルを使って、2人ペアで模擬授業を行う。 3/17 (土) 10:00-12:00	進路の会 場所：多岐の館4F 研修室1と2 講師：長谷川アツシ(南山学院大学)、NPO法人 達磨会 「自分らしく生きる・試験を乗り越えて」 中学を卒業してから、どう学びどう生きていくか、講師と参加者、参加者同士で交流し、考える。 3/17 (土) 13:00-15:00
中級2 場所：福岡市立センター 学習室 講師：山口美穂先生(小牧市立国語教育研究員) 「子どもの特徴を知り学習をサポートしよう」 小学校5,6年配当漢字の特徴を知り、漢字カードやドリルを使って授業を考える。 3/23 (金) 14:00-17:00	上級 場所：福岡市立センター 学習室 講師：平塚礼子先生(福岡市立国語教育研究員) 「漢字が覚えられない中高生をどう指導したか」 定時制高校の現状を聞き、中高生に漢字や日本語を教えるコツや指導のアイデアを出し合う。 3/23 (金) 18:00-20:00

日本語教室における日本語教師・ボランティアの状況 約95% (外国人集住都市会議)

	日本語教師		ボランティア	
	教室数	割合	教室数	割合
人は足りていて、今後も問題はない	0	0.0%	2	4.8%
現段階で人は足りているが、将来的に不足すると予想している	9	40.9%	20	47.6%
人が足りていない	12	54.5%	18	42.9%
わからない	1	4.5%	2	4.8%
合計	22	—	42	—

約90%

課題 めざす方向と求める方向のミスマッチ

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標

目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り、生活できるようになること

目標

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

「生活者としての外国人」のための日本語教育
ハンドブック(文化庁国語課)より抜粋

- ・ 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫
- ・ 行動・体験中心の活動
- ・ 専門家・地域住民との協働
- ・ 対話による相互理解の促進

外国人の「地域の日本語教室」
への流入
日本語能力試験等を受験する

- ・ 母国での就職が有利になるため高い日本語能力を身につけたい。
- ・ 国内でも、日本語能力が低いと高い賃金の職に就けない。(日本語能力向上が、外国人や地域における賃金の上昇につながる)

日本語能力試験や日本語検定など、日本語の能力を証明する試験の受験をめざす。

国への投げかけ

日本語能力の向上に対応した カリキュラムの作成

カリキュラム案で扱う生活上の行為

I 健康・安全に暮らす

- 01 健康を保つ
 - (01) 医療機関で治療を受ける
 - (02) 薬を利用する
 - (03) 健康に気を付ける
- 02 安全を守る
 - (04) 事故に備え、対応する
 - (05) 災害に備え、対応する

II 住居を確保・維持する

- 03 住居を確保する
 - (06) 住居を確保する
- 04 住環境を整える
 - (07) 住居を管理する

III 消費活動を行う

- 05 物品購入・サービスを利用する
 - (08) 物品購入・サービスを利用する
- 06 お金を管理する
 - (09) 金融機関を利用する

IV 目的地に移動する

- 07 公共交通機関を利用する
 - (10) 電車、バス、飛行機、船等を利用する
 - (11) タクシーを利用する
- 08 自力で移動する
 - (12) 徒歩で移動する

VII 人とかかわる

- 14 他者との関係を円滑にする
 - (31) 人と付き合う

VIII 社会の一員となる

- 15 地域・社会のルール・マナーを守る
 - (33) 住民としての手続をする
 - (34) 住民としてのマナーを守る
- 16 地域社会に参加する
 - (35) 地域社会に参加する

IX 自身を豊かにする

- 20 余暇を楽しむ
 - (44) 余暇を楽しむ

X 情報を収集・発信する

- 21 通信する
 - (45) 郵便・宅配便を利用する
 - (46) インターネットを利用する
 - (47) 電話・ファクシミリを利用する
- 22 マスメディアを利用する
 - (48) マスメディア等を利用する

※カリキュラム案 (p.12~13) に、さらに具体的な生活上の行為の事例を掲載しています。



日本語能力の
向上を図る
カリキュラム



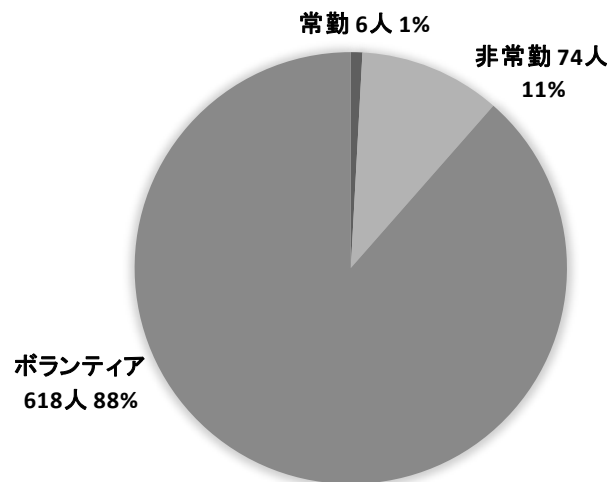
学ぶ側のニーズに
対応できる
総合的な日本語教育

「生活者としての外国人」のための日本語教育
ハンドブック(文化庁国語課)より抜粋

国への投げかけ

特に日本語能力の向上を確実に指導できる人材の育成と処遇改善。資格等の仕組みづくりや報酬補助。

日本語教師・ボランティアの構成
(外国人集住都市会議)



日本語教室運営における課題
(外国人集住都市会議)

- ・後進の育成を図ったり、若いボランティアや日本語教師が生計を立てていくことができるような資金の補助が公的機関より必要。
- ・教室に通う外国人の多様な学習ニーズと日本語ボランティアのスキルのミスマッチが起こりやすい。

国への投げかけ

企業に向け、外国人材に対する日本語教育の重要性について認識するよう、国から働きかけを行う。

日本語教育の推進に関する法律

(事業主の責務)

第六条 外国人等を雇用する事業主は、基本理念にのっとり、国又は地方公共団体が実施する日本語教育の推進に関する施策に協力するとともに、その雇用する外国人等及びその家族に対する日本語学習(日本語を習得するための学習をいう。以下同じ。)の機会の提供その他の日本語学習に関する支援に努めるものとする。